

News Letter

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

■ 第28号 ■

2008年10月22日

CONTENTS

■ 地域イノベーション創出2008 in やまぐち ～産学官連携・産業クラスター推進シンポジウム～	1
■ イノベーション・ジャパン2008	2
■ 新しい「山口大学知的財産審査委員会」の運用開始、 申請関係各様式の更新のお知らせ	3
■ 10月1日、『ライフサイエンス室』が発足	4
■ 科学技術振興機構の「大学発ベンチャー創出推進」に 本年も採択	5
■ 新スタッフの紹介	5
■ 山口大学客員教授講演会のお知らせ	5
■ 研究協力会部会講演会のお知らせ	6

発行	産学公連携・イノベーション推進機構
連絡先	〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1
電話	0836-85-9961 F A X 0836-85-9962
e-mail	yuic@yamaguchi-u.ac.jp
URL	http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/

地域イノベーション創出2008 in やまぐち～産学官連携・産業クラスター推進シンポジウム～

7月17日、18日の両日、海峡メッセ下関で、中国地域における産学官連携事業を総括し、その取組成果を具体的な新事業創出として展開していくことを目的として、「中国地域産学官コラボレーション会議」の参加機関と「中国地域産業フォーラム」関係者が一堂に集い、本シンポジウムが開催されました。

1日目は、「産学官連携・産業クラスター推進シンポジウム」が行われ、本学からは三木副学長をはじめ、産学公連携・イノベーション推進機構のスタッフ、産学連携課職員が出席し、中国地域の産学官連携の動向や今後の方向性などの情報収集や意見交換を行った。

中でも、本学産学公連携・イノベーション推進機構の堀副機構長がコーディネータを務めた「地域イノベーション創出研究交流会」には、山口県内の関係者をはじめ多くの方々が参加し、山口県の産学公連携に関して、今後の展開や事業化に向けた課題等について意見交換が行われ、最後に(財)やまぐち産業振興財団提案の「事業家支援・連携コーディネート会議(仮称)」設置について参加者から賛同が得られ、地域発イノベーション創出に向けた新たな産学公連携の取組への機運醸成と合意形成がなされた。

2日目は、当学OBで日立金属(株)元社長・会長の松野浩二氏の基調講演『「ものづくり」からみた産学協同への提言』から始まり、「第8回中国地域産学官コラボレーション会議」では、中国地域産学官連携アクションプラン(5ヶ年計画)の中間見直し案について参加74機関の承認が得られ、引き続き産学官連携に積極的に取り組んでいくことが確認されました。

最後に、今大会の締めとして、産学官連携活動において先導的な取組みを行うなど、多大な成果を収め、他の模範となるような事例が「中国地域産学官連携功労者」として表彰され、本学の関係では、工学部特命教授岡本健一先生の「耐高温高湿性に優れた新規湿度センサーの開発」が共同研究・技術移転功労賞を、また、大学院理工学研究科准教授佐伯 隆 先生の「水環境設備の輸送エネルギーを20～50%低減できる配管抵抗低減材の開発とその普及」が大学発ベンチャー功労賞を受賞し、その功績が称えられました。

中国地域における産学官連携活動と産業クラスター計画を更に加速させるための2日間となり、本学にとっても、地域発イノベーションの推進に向け、新たな枠組みでスタートをきるきっかけとなる意義深い2日間となりました。



東京有楽町の東京国際フォーラムにおいて9月16日～18日に開催された「イノベーション・ジャパン2008－大学見本市」(主催:(独)科学技術振興機構(JST)、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、共催:文部科学省、経済産業省、内閣府、日経BP社)に、山口大学産学公連携・イノベーション推進機構と(有)山口ティー・エル・オーは合同で出展をいたしました。今回で5回目となるイノベーション・ジャパン2008には、全国134の大学から、329のシーズが出展され、3日間で4万5千人以上の来場者がありました。

イノベーション・ジャパンのメリットの1つは、開催場所が東京の有楽町のため、交通アクセスが良く大企業から中小企業、官公庁の方まで4万人規模で来場者があることです。2つ目は他の企業合同のフェアと違って、イノベーション・ジャパンは大学及び大学発ベンチャーが主体であるため、始めから、大学との連携と将来の実用化を視野に來られる方が比較的多いことがあげられます。

今回、山口大学は、起業準備中の山口大学発ベンチャーのシーズ案件を含めて、新技術説明会8件、山口大学とTLOブースでの展示計7件と過去最大数の技術シーズを出展いたしました。7つのブースには3日間で約1000人の来訪者がありました。お忙しい中、参加いただいた教員の方からは、企業の方から様々な情報を収集でき、また、案件によってはその場で具体的なマッチングの話もあり、満足されたとの声を多く聞きました。

また、初日の16日には主催者の1つのNEDOの案内で安部元首相が山口大学の佐伯先生のブースを来訪され、丸本学長との挨拶の後、三木機構長及び佐伯先生と研究室の学生により、省エネ技術の説明や技術デモを行いました。安部元首相来訪中、山口大学のブース付近はSPや関係者の周りに見学者が多数集まり、とてもにぎやかなものとなりました。

イノベーション・ジャパンは国際的な競争の中で、日本の産業の競争力を高めていくために大学のシーズ(新技術や知識)を企業のニーズとうまくつなげていき、そこから新しいイノベーションをおこすことを目的として、大学と企業のマッチングの場として開催されています。主催者の1つJSTによると、いま民間企業では「選択と集中」ということで研究開発については自分の得意分野に集中して、不得意な分野、周辺分野の技術開発については大学と連携しようという流れになっているそうです。したがって企業が少し不得意な分野、ないしはコアの部分ではない分野については大学としっかり連携できるようになっていけば、連携を出発とした大きなイノベーションの素地ができるのではと期待しています。



～出展テーマ～

大学ブース

- 「耐熱性エタノール生産細菌を用いたバイオエタノール生産技術」 山田守先生
 - 「空調ポンプの電力費を20～50%低減できる配管抵抗低減剤」 佐伯隆先生
 - 「血液循環機能計測装置の開発」 安田利貴先生
 - 「電気化学的にナノ構造制御したマンガン酸化物薄膜」 中山雅晴先生
 - 「ケミカルイノベーションを目指した化合物のin silico合成経路開発」 堀憲次先生
- 株式会社Transition State Technology (山口大学発ベンチャー起業準備中)

TLOブース

- 「白色LED光治療器の開発と臨床研究の推移」 平野均先生
- 「中心体複製異常を用いた膀胱癌予後予測マーカーの実用化」 松山豪泰先生
- 「高性能フレキシブルディスプレイ目指した多結晶Siの低温大粒径化技術」 河本直哉先生

知財部ブース

山口大学知的財産部門

新しい「山口大学知的財産審査委員会」の運用開始、申請関係各様式の更新のお知らせ

平成20年10月1日より、新しい「山口大学知的財産審査委員会」の運用を開始いたしましたのでお知らせします。

詳細は、山口大学産学公連携・イノベーション推進機構ホームページ「知的財産権利化支援」の欄に掲載し、併せて今回の知的財産審査委員会改編の趣旨や今後の審査・運用方法についても掲載しています。また、知的財産審査委員会の改編に伴い、申請関係各様式も更新しましたので参照下さい。

【詳細】

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構HP>大学教職員と学生の方へ>知的財産権利化支援

1. 知的財産審査委員会の改編

(1) 改編の背景と目的

イノベーションの「種」となる、基礎研究から生まれる「発見」を生かして知的財産を創出し、国内外の産業界との間で知的創造サイクルの構築を目指す「山口大学ビジョン」をより確実にするため、山口大学の知的財産を専門的に取り扱う知的財産審査委員会の改善を行うこととした。特に出願時の審査体制の改善を狙いとして、知的財産審査委員会の改編を検討するとともに、より強い知的財産権を創出するために、審査の基礎となる各審査基準、各ディスクロージャーフォーム(申請関係各様式、開示資料)についても見直した。

(2) 改編のポイント

- ①審査委員は、学内外の有識者等を主体として構成
- ②定期的に審査委員会を開催し、審議する委員会方式(合議)の体制
- ③各審査基準の見直し、審査資料となる各ディスクロージャーフォームの見直し
 - ・各審査基準を明確化
 - ・審査資料となる各ディスクロージャーフォーム(国内出願時の知財創作届書、発明についてのTLO・コーディネータ(CD)等の所見/知的財産部門コメント、外国出願時のJST外国出願支援申請書、審査請求時の審査請求要否調査回答用紙 等)には、審査に必要な十分な情報を盛り込む

2. 新しい審査体制

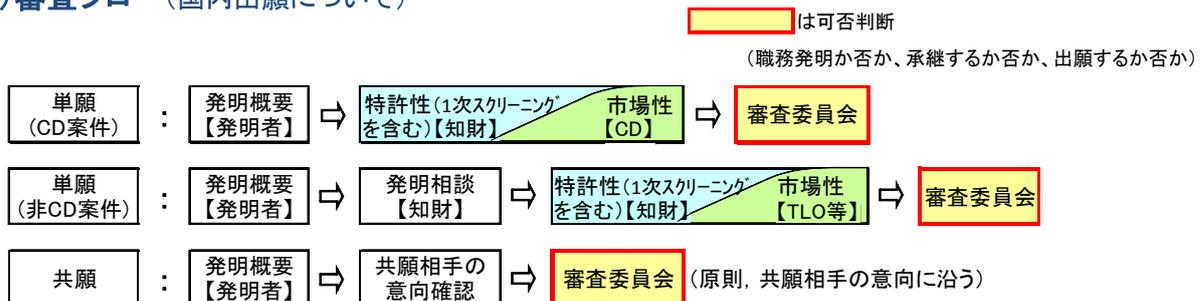
(1) 審査委員会の位置付け

下記(2)の各審査案件を審議する。

(2) 審査の種類・・・各審査のしかた、各審査基準、審査資料については、山口大学産学公連携・イノベーション推進機構ホームページの「知的財産権利化支援」の欄を参照

- ①国内出願案件の審査
- ②外国出願{(独)科学技術振興機構(JST)への支援申請}案件の審査
- ③審査請求案件の審査
- ④JSTへの外国出願支援申請が採択・不採択時の処理手法
- ⑤権利維持・放棄の処理と審査

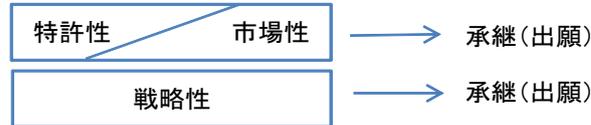
(3) 審査フロー(国内出願について)



新しい「山口大学知的財産審査委員会」の運用開始、申請関係各様式の更新のお知らせ 次ページに続きます

(4) 審査のポイント

- ①特許性 → 知的財産部門が判断
- ②市場性 → TLO、コーディネータ等が、技術移転の可能性を中心に判断
- ③戦略性 → 審査委員会が、大学の戦略、研究者の戦略に基づいて判断



注) 特許制度は、産業の発達を目的とする(特許法第1条)もので、市場性が重要視されている。

(5) 審査委員会の構成

学内の有識者(役職者: 機構長、機構3部門の各部門長3名)4名、外部技術移転機関者1名、学外の弁理士1名、学外の有識者4名の計10名を審査委員とする。

(6) 審査委員会の進め方

- ①審査委員は、出願状況に応じて(月1回程度、5時間/回程度)、審査委員会に集まり、審査(30分/件)する。
 - ②審査は、原則として、審査委員による委員会方式(合議)とする。
 - ③審査委員会は、事務局を知的財産部門に置き、委員長(機構長)が総理する。
 - ④審査委員会は原則半数以上の委員の出席で成立し、審議では出席者の過半数をもって決定とする。(同数の場合は委員長が決定する。)代理出席は委員長の承認を要する。
 - ⑤審査委員会では、1)国内出願時、2)外国出願時、3)審査請求時、及び4)JSTへの外国出願支援申請が採択・不採択時、5)権利維持・放棄時、の各案件について報告、審議する。
 - ⑥審査は、案件毎に、各審査基準、審査資料に基づいて行う。
 - ⑦審査委員会には、必要に応じて(発明概要の説明等で)、知的財産部門の担当者、発明者、コーディネータ等がオブザーバーとして適宜参加できるものとする。
 - ⑧委員会での決定事項と判断理由は、申請者に報告する。但し、個々の委員の意見は非公開とする。
- 以上

**10月1日、『ライフサイエンス支援室』が発足。
ライフサイエンス分野での産学連携、イノベーション創出を強力に支援します。**

ライフサイエンス分野(創薬、診断、診断・治療機器、再生医療など)における産学連携は、情報通信や環境、ナノテクノロジー・材料などといった他の技術分野での産学連携と比較して、特許戦略、事業化戦略、研究成果有体物の扱いなどにおいてかなり異なった状況に置かれており、特有の課題を抱えているといわれています。

こういった中で、山口大学産学公連携・イノベーション推進機構では、ライフサイエンス分野での産学連携やイノベーション創出に向けた支援体制を強化するため、10月1日、『ライフサイエンス支援室』(以下「支援室」と呼ぶ)を設置しました。

支援室は、室長として乾誠医学系研究科教授、プロジェクトコーディネーター1名(予定)、殿岡裕樹コーディネーターで組織され、ライフサイエンス分野のシーズに関わる情報の収集や提供、山口大学の持つライフサイエンス分野の知的財産や産学連携支援、ライフサイエンス分野の研究支援、研究成果有体物に関わる事項、情報セキュリティなど危機管理の啓発などの業務を行います。活動拠点を学内の三地区(小串、常盤、吉田の各地区)に置き、ライフサイエンス支援室のコーディネーターが、医学系研究科、理工学系研究科(理学および工学)の研究室を訪問して、研究現場の要望やシーズを聞かせていただく予定です。

なお、本年12月頃、支援室設置のオープニングセレモニーとして、ライフサイエンス分野の有識者を講師としてセミナーの開催を企画しています。詳細が確定しましたら、改めてご案内申し上げますのでどうか奮ってご参加下さい。

科学技術振興機構の「大学発ベンチャー創出推進」に本年も採択

平成20年度科学技術振興機構(JST)の独自のシーズ展開事業「大学発ベンチャー創出推進」に農学部山本晴彦教授のグループが応募した課題が採択されました。これは、昨年度の理工学研究科堀憲次教授のグループの採択に続くものです。

この「大学発ベンチャー創出推進」事業は、大学の研究成果を基にした起業および事業展開に必要な研究開発を推進することにより、イノベーションの原動力となるような大学発ベンチャーが創出され、これを通じて大学の研究成果の社会・経済への還元を推進することを目的としています。

開発代表者として山本晴彦農学部教授、起業家として岩谷潔農学部非常勤研究員、側面支援機関として(財)やまぐち産業振興財団の連名で申請しました。全国の大学からの71件の応募があり、その中から採択されました。

採択された課題名は「短日性農作物の光害(ひかりがい)を回避するLED屋外照明装置の開発」で、農学部での研究成果と知的クラスター創成事業での研究成果とに基づくものです。

光害とは、様々な屋外照明により、付近の農作物の生育阻害や収量の減少が生じる現象であり、夜間の屋外照明により暗転換が行なわれず、開花誘導遺伝子の発現が抑制されることにより、稲のような短日性植物の開花(出穂)が遅延、すなわち生育阻害や収量減少・品質低下が発生します。

今回の課題は、植物学の視点から光害を回避する屋外照明装置を開発し、学内外の協力者の支援を得て、起業を目指すものであります。また、光害を懸念して設置が進んでいなかった屋外照明が、この新しい屋外照明の開発により、児童・生徒の通学路や住民の生活道路の安心・安全に貢献できることも期待されます。

新スタッフの紹介



氏名: 杉浦 文彦 (すぎうら ふみひこ)
専門分野: 機械工学(輸送機器製造)、知的財産

本年10月より山口大学産学公連携・イノベーション推進機構でコーディネータとして勤務しております。まだ右も左も分からない状態ですが、早く機構の戦力になれるようがんばりますので、よろしくお願いたします。

前職では、輸送機器メーカーの知的財産部で特許・意匠の出願・権利化、特許調査、社内技術者に対する知財教育などを担当していました。また、特許出願に関連して、他社・大学との共同開発契約、特許権の譲渡・ライセンス契約なども併せて行っていました。

知的財産部での仕事の前は、輸出部門で自動車のアフターセールスサービスを担当し、海外販売店の技術指導なども経験しています。

今回、コーディネータとして、知財と営業の経験を期待されていると思っております。

これまで外から見ていた山口大学の産学連携の取り組みは、他の大学・TLOと比べてとても活発に活動されているとの印象がありました。実際中に入って皆様エネルギーを感じています。

これから、地域発イノベーションにかかわる業務を通じて、大学の知を活用した地域産業の活性化に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

山口大学客員教授講演会のお知らせ

★特別講演会

「地下空洞周りの岩盤は、どうなっているのか? ~日本原子力研究開発機構の掘削影響研究~」

日時: 2008年11月11日(火) 14:30~16:00

会場: 山口大学工学部 社会建設工学科会議室

講師: 杉原弘造 客員教授(日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター 副所長)

参加費: 無料

お申し込み・お問合せ先: 山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

TEL: 0836-85-9961 FAX: 0836-85-9962 E-Mail: yuic@yamaguchi-u.ac.jp

詳細→ <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学客員教授講演会のお知らせ 次ページに続きます

★特別講演会

「斜面災害と対策工について～グラウンドアンカー工法～」

日時:2008年11月26日(水) 14:00～15:30

会場:山口大学工学部 E講義棟 E21教室

講師:原田 博 客員教授(ライト工業株式会社 本社顧問)

参加費:無料

お申し込み・お問合せ先:山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

TEL:0836-85-9961 FAX:0836-85-9962 E-Mail:yuic@yamaguchi-u.ac.jp

詳細→ <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>

研究協力会部会講演会のお知らせ

★フードバイオ部会

バイオ分離研究会「バイオ医薬品分離プロセスのイノベーション」

日時:2008年11月27日(木) 17:00～19:00

28日(金) 9:40～18:00

29日(土) 9:40～13:00

会場:山口大学工学部D講義棟11教室

(宇部市常盤台2丁目16-1)

発表予定者:

2-ステップクロマトグラフィーによる安価で効率よいモノクロナル抗体精製プロセス

B. ハンマベリ、ABDライフサイエンス、香港

高濃度モノクロナル抗体に対応する次世代2-カラムクロマト分離プロセス

石原 尚、協和発酵キリン

細胞培養液からのバイオ医薬品の効率的なクロマト回収プロセス

P. ギャグノン、バリデーティッドシステム、米国

Quality-by-Designによるクロマトモデルのバイオ医薬品分離への応用

O.カルテンブルナー、アムジェン、米国

イオン交換クロマトグラフィーによる効率的なHCPの除去

E.ミューラー、東ソーバイオサイエンス、ドイツ

クロマトモデルのプロセス設計、最適化、バリデーションへの利用

山本修一、山口大学

クロマトグラフィーを代替するバイオ医薬品分離方法はあるか?

A.ユングバウアー、IAM-BOKU、オーストリア

生体高分子とバイオ粒子の精製のためのモニスクロマトグラフィー

A.ポドゴーンニク、BIA Separations、スロベニア

プラスミドとバイオ粒子精製:現状と問題点

C.タルマン、IAM-BOKU、オーストリア

アルカリ耐性プロテインAクロマトグラフィーカラムの特性

中村孝司、東ソー

ポスターセッションとポスター発表者のミニプレゼンテーション

申し込みおよび詳細: <http://bs.eng.yamaguchi-u.ac.jp>

E-mail: bs@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学 山本修一 (藤井幸江、吉本則子)

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

Innovation Center, Yamaguchi University

連絡先: 〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1

発行: 山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 TEL:0836-85-9961 FAX:0836-85-9962

E-mail: yuic@yamaguchi-u.ac.jp ホームページ: <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>
